

海外企業の信用調査及び輸出代金回収について

(平成25年5月16日、上越国際ビジネス研究会)

北越銀行
金融サービス部

輸出取引において、代金の回収はまず海外取引先（海外のバイヤー）の信用に左右されます。また、輸出代金の回収は送金から信用状決済まで多岐に渡る選択肢があります。決済方法の違いで資金回収の確実性、所要時間、手数料などが変わります。

1. 海外信用調査の方法

(1) 取引銀行を通じて相手企業の信用調査を行う

これは輸出者が自社の取引銀行に、海外銀行あてに信用照会を打電することを依頼し、銀行を通じて情報を収集する方法です。ただし、近年個人情報保護などを理由に情報提供を拒否する銀行は少なくありません。また、費用として銀行側の電信料（数千円程度）がかかります。

(2) 日本貿易保険を通じて相手企業の信用格付を取得する

独立行政法人日本貿易保険は、本邦中小企業の輸出を支援するため、海外業者を3社まで日本貿易保険の費用負担で与信を審査し、審査結果を格付として「海外商社名簿」に登録する（提携銀行経由で依頼する場合は6社まで無料審査※）。審査結果の詳細は開示されませんが、格付は依頼した会社にフィードバックしますので、有効な調査方法のひとつです。

※県内提携金融機関：北越銀行、第四銀行（提携開始順）

(3) 民間信用調査会社に信用調査を依頼する

これは最も有効な調査方法ですが、費用がかかります。数多くの民間信用調査会社のなかに、コファスサービスジャパン株式会社（ジェットロ取次ぎ可能）、ダンアンドブラッドストリート社（D&B社。東京商工リサーチが総代理店）などがあります。（調査費用は地域や調査範囲によって変わりますが、取引銀行経由で調査依頼を申込する場合、通常料金より安くなる場合があります。）

【過去の事例】 取引銀行経由で中国の輸出業者の信用調査を依頼した場合に

かかった費用（消費税込み）：

和文詳細レポート・・・・・・・・・36,750円

レポート代金振込手数料・・・・・・・・・840円

銀行取扱手数料※・・・・・・・・・1,575円

※北越銀行所定取扱手数料

合計 39,165円

(本件は北越銀行が三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に取り次ぎした案件)

2. 輸出代金の回収方法

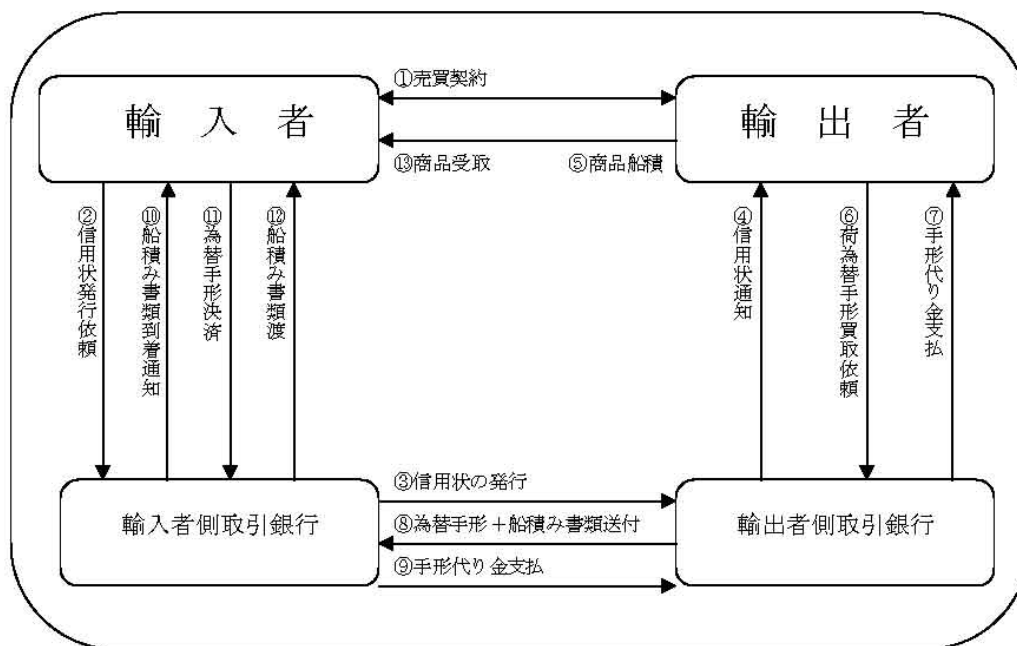
(1) 輸出代金の前受け

少なくとも船積みの前に、代金の全部、または一部を前受けし代金を回収する方法です。最もリスクの少ない方法ですが、取引相手（輸入者）にとっては最もリスクの高い方法でもあります。取引相手の心配を解消するには、輸出者の取引銀行から前受け金の返還を保証する「リファンドメンド・ボンド（前受け金返還保証状）」を発行してもらう方法があります。

(2) 銀行発行の信用状

これは銀行の信用を利用する古典的な決済・代金回収方法です。信用状は国際商業会議所（I C C）制定の信用状統一規則（U C P 6 0 0）に準拠し、資金決済及び書類のやり取りは輸出入者の取引銀行を通して行われるもので、信頼性の高い方法として従来から広く利用されています。但し、手続きの煩雑さに加え、銀行手数料と処理時間は送金決済よりかかりますので、近年利用は減少傾向にあります。

【信用状を利用した商品代金決済（買取）の一例】



また、上記例示の輸入者側取引銀行（信用状の発行銀行）の国際的信用度が低い場合、信用度の高い別の銀行から更に支払の保証を取り付けることも可能です。これは信用状の「確認（C o n f i r m e d）」といいます。

(3) 信用状なし輸出手形取立 (D/P・D/A)

信用状を使わないが、銀行が介在してもらい、少しでも取引を安心させたいという希望に、銀行は信用状なし輸出手形の取立を取り扱っています。支払に猶予の有無により下記の取引条件があります。

- ①手形支払書類渡し (D/P：手形決済と引き換えに輸入書類を引き渡す)
- ②手形引受書類渡し (D/A：手形引受けと引き換えに輸入書類を引き渡す)

上記のように、輸入者は手形の決済、または引受けをしなければ輸入書類の入手ができないので、輸出者にとって代金の回収は送金決済と比べ、確実性が高くなります。

ただし、銀行の介在があっても、輸入者が資金繰り困難などを理由に手形決済または引受けを拒否した場合、資金の回収はできなくなる恐れがあります。信用状利用の場合は、信用が銀行にかかるのに対し、D/P・D/Aの場合は、あくまで輸入者にかかっているからです。銀行ができるのは、輸出手形の決済または引受けまで輸入書類を輸入者に引き渡さないことです。

(4) 代金の後受け

これは輸入者にとってもっとも安心な決済方法ですが、輸出者にとっては最もリスクの高い方法です。この場合、輸入者から銀行発行の支払保証状やスタンドバイ信用状の差し入れがあれば、リスクを回避することができます。

つまり、**代金回収の保証＝輸入者取引銀行**

輸出代金回収方法＝電信送金などコストの安い方法

貿易信用状と比べ、輸出代金回収にかかる銀行手数料や所要日数は、ともに最小限に抑え、信用リスクは銀行の保証で最大限に回避できるといえます。

欠点としては、保証状またはスタンドバイ信用状の発行手数料が高いことと発行の難易度が高いこと（輸入者側の銀行が発行依頼人に対する与信審査）が挙げられます。

(5) 貿易保険の活用

独立行政法人日本貿易保険は、非常危険 (Country Risk) および信用リスク (Commercial Risk または Credit Risk ⇨ 取引先の倒産など) をカバーするために輸出保険を取り扱っています。送金決済、D/P・D/A取立に活用することで資金回収の確実性が高くなります。

なお、貿易保険の利用に取引相手先の与信審査、取引自体に対する諸条件がありますので、貿易保険を利用する前に、無料相談制度の活用がおすすめです。相談の受付は日本貿易保険のほか、各提携金融機関も窓口となっています。

以上